

評価項目 1 教育理念・教育目的・人材育成目標・学校運営

1977年、大学受験の私塾として久留米の地で創業し50周年の節目を迎えた久留米ゼミナールはチャレンジ・オン（挑戦し続けるという意）という同校の教育の原点に回帰し、次の10年を見据えた人材教育を具体化するため各学科・コースの目標を設定した。

| 評価項目 | 教育理念・教育目的・人材育成目標 | 学校運営 |
|-----------------------|--|---|
| 大学受験科 | 知識一辺倒の従来の予備校教育から脱却し、教師と生徒が共に考え、共に学び「感動を分かち合う予備校」をめざし、目標とする大学の合格のみならず、その先のキャリアパスを見据えた教育、未知の課題に柔軟に対応できる総合力を身につけた人材育成をめざす。 | 答えが用意されている課題ではなく、未知の課題にいかにか柔軟な発想力、分析力、総合力をもって対処できるかが求められている時流のなか、対話重視、双方向型授業、少人数特別授業を展開し、「思考力」の深化をめざす。その先にある志望校の合格のみならず、大学進学後あるいは大学卒業後のキャリア形成を見越した指導を行っていく。 |
| 日本語学科 | めまぐるしく変化する国際情勢のなか、どのような人材が求められるか。またグローバル化が進展する日本において、時代の要請に応えられる人材の育成を教育目標とし、以って社会的使命も果たすことを目標に掲げた教育を施す。 | 日本語教育機関として第一義的には「日本語能力試験N1を取得するなら久ゼミ」をめざすと同時に、日本語学習に偏ることなく、時代の変化に対応したコミュニケーション力の強化、日本社会への適応のための理解を促すカリキュラムを通じ、自らのキャリアをデザインする教育に注力する。 |
| 国際教養科 | 少子化が進む日本社会において、むしろ不登校と呼ばれる児童・生徒は増加傾向にある。既存の学校教育では収まらない子どもたちの受け皿の重要性が更に高まっている。その時代の要請に応える学校として、「生きづらさ」を「生きる力」へと変え、社会での居場所を確立できる個人の育成をめざす。 | 生徒たちに生きる力を与えるための具体的な方策として、①プログラミング教育、②大学受験と留学を視野に入れた英語教育（語学教育・異文化理解）、③生きづらさを抱える生徒への社会適応訓練一を主な柱として具体的なカリキュラムを実践する。 |
| 共生館 国際福祉 医療カレッジ | 高齢化社会のなか慢性的な人材不足と言われる福祉業界にあって、日本人、外国人の分け隔てなく「福祉人」として求められる人材を育成することを大目標として今後の教育にまい進する。 | 社会福祉士、精神保健福祉士と介護福祉士の3大国家資格の合格者を輩出し、以って人材不足にあえぐ福祉業界に貢献し、グローバルな視点で福祉を俯瞰する人材の育成を行うための教育を実践する。 |
| 5段階評価 | 4 | 4 |

評価項目 2 教育活動

| 評価項目 | 教育活動 |
|-------|--|
| | 日々の業務をこなしながらも、次なる10年へ向けて何をすべきか、部署単位での議論が進んでいる。また部署横断的な新しい取り組みも見られ始めていることは大きな前進である。さらなる複合的、重層的な教育サービスの提供に向けた取り組みが期待できる。 |
| 5段階評価 | 3.5 |

評価項目 3 生徒指導

| 評価項目 | 生徒指導 |
|-------|---|
| | 大学への進学であれ、企業への就職であれ、基本的な規則正しい生活習慣を身につけていることが目標達成の大前提であるとの考えから、始業前の生徒・学生への連絡等を密にし、定期的に学生寮における生徒・学生の生活実態を把握するために訪問を行い、常に生徒・学生の変化に気づく体制を整えている。 |
| 5段階評価 | 4 |

評価項目 4 特別活動

| 評価項目 | 特別活動 |
|-----------------------|---|
| 大学受験科 | 学生と教職員との親睦、信頼関係構築を目的に、スポーツ大会等のレクリエーション活動を実施。保護者を交えた3者面談、学生との2者面談を頻繁に実施し、常に学生の学習進捗、心理状態を把握することに努めている。 |
| 日本語学科 | 従来実施している教職員が学生の出身国へ出向き保護者と懇談会を実施。学生の日本での生活の様子や学習の進捗について保護者に報告し学校の指導方針に理解を求めることで共同して学生の教育を進めている。進路教育の一環として進学月間を設定し、高等教育機関の説明会や体験授業を実施し、学生たちに進路を意識させ目標の設定を促す活動も行っている。 |
| 国際教養科 | 上記と同様の活動に加え、学校周辺の清掃活動、地元の夏祭りでのボランティア活動に参加させ社会との接点を積極的に持つよう促している。生徒の自主的な同好会活動も徐々にその数を増やしている。 |
| 共生館 国際福祉 医療カレッジ | 地域清掃活動などボランティア活動に参加させることにより奉仕の精神、福祉人としての素養を身につけることを促している。 |
| 5段階評価 | 3.5 |

評価項目 5 学修成果

| 評価項目 | 学修成果 |
|-----------------------|--|
| 大学受験科 | 国公立大学の平均合格率85%超を維持。医学部合格実績も国公立・私立大学ともに目標を達成するなど、学生、保護者の要望に応える結果を出すことができています。 |
| 日本語学科 | 日本語能力試験の上位級であるN1、N2の合格率を高めることができた。 |
| 国際教養科 | 卒業後の進路（進学・就職）の各定率を80%以上に向上させるべく日々努力している。 |
| 共生館 国際福祉 医療カレッジ | 国家試験の合格率を飛躍的に高めることができた。 社会福祉学科においては3年連続で合格率80%超を達成。また通信学科においても2017年度の社会福祉士合格率80%、精神保健福祉士合格率100%と、全国平均を大きく上回る数値を達成できた。 |
| 5段階評価 | 4.5 |

評価項目 6 生徒・学生支援

| 評価項目 | 生徒・学生支援 |
|-----------------------|---|
| 大学受験科 | 職員室のオープン化、個別指導室の設置。チューターによる学生の相談に対応するなど、物心両面でのサポート体制を整えている。 |
| 日本語学科 | 学生寮を準備し来日後の不安解消、アルバイトの支援と管理を行い、学生の本分を全うできる支援体制を整えている。 |
| 国際教養科 | 精神的に不安定な生徒や、学習、対人関係に悩む生徒に対して、専門的な見地から指導できる専門職員を配置し、家庭や外部の支援団体と連携して生徒の支援にあたっている。 |
| 共生館 国際福祉 医療カレッジ | 学生たちの最大の関心事である国家試験合格をめざし、教員の集団授業に加え個別指導に対応している。 |
| 総合評価 | 高等教育機関への進学という大目標を達成するための支援体制は十分に果たしていると評価できる。 |
| 5段階評価 | 4.5 |

評価項目 7 教育環境

| 評価項目 | 教育環境 |
|-----------------------|---|
| 大学受験科 | 医学部進学コースのための新校舎の供用が開始されたほか、英語のリスニング対策のためのLL教室の充実を図ってきた。 |
| 日本語学科 | 外国人留学生の専用校舎にて日本語習得という目標を達成する環境が整っている。 |
| 国際教養科 | 校舎全体のLED化が完了。 |
| 共生館 国際福祉 医療カレッジ | 新たな学科開設に向けてハード面の整備を進めているところ。 |
| 総合評価 | ハード面での教育環境の整備は、共生館を除いては現状を維持。 |
| 5段階評価 | 3 |

評価項目 8 学生募集

| 評価項目 | 学生募集 |
|-------|---|
| | 少子化が顕著となるなか、各学科ともに工夫を凝らした募集活動を行っているが、国際教養科については、中学校から直接進学してくる生徒が減少傾向にあるため、新たなルート開拓が求められている。また共生館においても福祉離れの傾向が続く流れで、いかに外国人留学生を取り込むかが課題となる。 |
| 5段階評価 | 3.5 |

評価項目 9 法令等の順守

| 評価項目 | 法令等の順守 |
|-------|--|
| | 学校運営に必要な変更が生じた場合には遅滞なく監督官庁への届け出、報告を行うよう引き続き努力していく。SNSをはじめとするネット上での交流やPRの機会が増える時世に、個人情報の取り扱いがますます重要となっているため、この分野での教職員を対象とした勉強会を充実することが今後の課題となる。 |
| 5段階評価 | 3 |

評価項目 10 社会貢献

| 評価項目 | 社会貢献 |
|-------|---|
| | 専修学校久留米ゼミナール、共生館では社会人向けあるいは学生向けの資格取得や大学入学試験の会場として他団体に校舎を貸与している。 これまでにはなかった外国人留学生が受験する日本語能力試験や日本人の中高生などが受験する英検の試験会場にも新たに指定されるなど、教育機関としての認知度が高まっている。 |
| 5段階評価 | 4 |

評価項目 11 国際交流

| 評価項目 | 国際交流 |
|-------|---|
| | 日本語学科が継続している中国安徽省合肥市の高校生の修学旅行団の受け入れや久留米市の留学生観光サポーター制度の登録認定を受けて、SNSで情報発信し、久留米市の国際化、認知度アップに貢献している。 今後は、日本人学生・生徒が国際交流に参加し、双方向での情報発信が活発になることが課題。 |
| 5段階評価 | 4 |

総 括

2017年（平成29年）に創業50周年の記念の節目を迎え、大学受験予備校（久留米校、佐賀校、医学部進学コース）、日本語学科、単位制・通信制高校部門、福祉の専門学校を運営。また高齢者介護施設（つつじ苑）とともに法人グループとして総合的な学びの場と収益体質の強化に努めている。

財務情報の公開については、別紙参照。